

矢祭子ども司書になる君たちへ

きょうは、君たちは自分のことを、大いに誇りに思っている日です。学校の同じ学年には、たくさん友だちがいる中で、君たち十二人だけが、それぞれに自らすすんで子ども司書講座を受けようと決心したのですね。それは去年の夏のことでしたね。

日が経つのは早いもので、矢祭もつたいない図書館の本の貸し出しや、返された本を書架に戻す時の並べ方、本の分類法、大きな公共図書館の見学、そして自然の中での俳句の学びと作句など、たくさんのカリキュラムをこなしてきましたね。よく頑張りました。

こうして図書館のことを学んだことによって、本は書かれている内容によって、いくつもの分野に分かれていることや、傷んだ本の直し方など、いろいろなることを知り、君の本を見る目が変わったことですよ。

このような学びをしたことは、君が本を読む時に本の内容をより深く理解するうえで、とても役に立つにちがありません。

さあ、今日から君は、矢祭子ども司書という肩書きを持つようになったのです。いろいろな活動に参加して、君の子ども時代を輝かしいものにしてください。

平成三十年二月二十四日

ノンフィクション作家 柳田 邦男